

東日本大震災が発生してから、多くの人たちが東北に行ってボランティアとして活動しているね。今回は、NPO法人生涯学習サポート兵庫の活動から始まって、現在は自立した組織として成長しつつある「ワカモノデカラプロジェクト」の取り組みを紹介するよ。



## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

『ワカモノ』の  
元気を届けよう！

『ワカモノデカラプロジェクト』は、3月11日の震災をきっかけに、「ワカモノのチカラを届けよう」と始まった。当初は夏休みの大学生を東北へ送る支援バスの名称だったが、戻ってきた学生達がその後に行けることを話し合い、現在ではその学生自らが運営スタッフとなって「関西から何かをしよう！」という思いを形にする組織として、さまざまな独創的な活動を展開している。

被災者生活支援活動「あんだんでは、自分達の持っている本や洋服などを売り、その代金を東北に届ける活動として始まった。現在では、東北の人々が作ったミサンガやストラップなどの手芸品を販売している。避難家庭支援活動「サンデーロボット」は、兵庫県に避難している



避難している子どもたちの笑顔をつくる

## 現地に行った僕たちだからこそできる活動がある！

～ワカモノデカラプロジェクト～



自らの思いを形にする「ワカモノ」たち

母子世帯の方々などを対象に、子どもたちと学生が一緒に遊ぶという活動だ。このほかに、東北で自分たちが見たものを発信する活動「ツタリベ」や、学生による支援団体のネットワーク化を目指して開催する「学生未来フォーラム」など、それぞれの活動に学生スタッフが責任を持って取り組んでいる。

活動で得たものを  
将来に生かす

関西の各地からさまざまな学生が集まって活動している同プロジェクトについて、活動の母体となったNPO法人生涯学習サポート兵庫の菅野将志さんは次のように語る。「ここでは災害支援のノウハウに限らず、組織運営や企画力など多くのものを身に付けることができる。これらを生かして社会に貢献できるワカモノを育てていきたい」。多

様な立場の人たちの中での活動は、他では得られない貴重な経験だ。地域との関わりが少ない学生の、社会での役割づくりという点も意識されている。

同プロジェクトでは、被災地のことと「復興に向けて頑張っている場所」という意味を込めて「復興地」と表現している。この「復興地支援」をこれからのようにして展開していくか、菅野さんは「もっともっと仲間を増やして継続的な組織になるようにしていきたい」と今後の展望を語ってくれた。

### 取材を終えて

東日本大震災の支援から始まった取り組みですが、これまでも、これからも、学生たちと共にどんどん成長している活動だと感じました。今後どう変わっていくのか、とても楽しみです。

ワカモノデカラプロジェクト  
姫路市飾磨区英賀西町2-15-2  
NPO法人生涯学習サポート兵庫内  
☎079-230-0661  
<http://gakuseimirai.jimdo.com>